

アーカイブ Data Report NO. 200

(2022年12月18日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

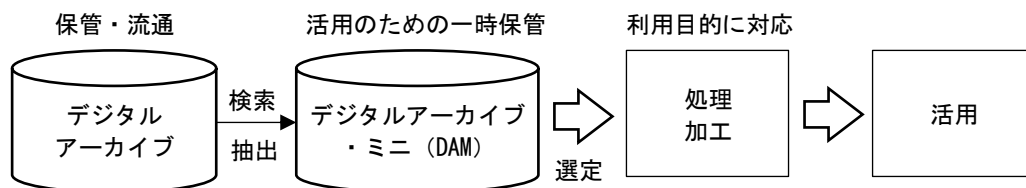
(* 岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

デジタルアーカイブから検索、抽出したデジタルコンテンツを一時保管するデジタルアーカイブ・ミニ (DAM) について

横山 隆光、齋藤 陽子、谷 里佐、櫛 彩見 (岐阜女子大学)

1. 利用目的に対応したデジタルコンテンツの一時保管

デジタルアーカイブから利用目的に対応した資料を調べるために検索、抽出したデジタルコンテンツを領域別に整理し一時保管することにより、いろいろな分野で使いやすくなる。たとえば、教材開発では、関係素材を集め、それを一時保管し、その中から学びに通ずる素材を選び教材化し利用する。

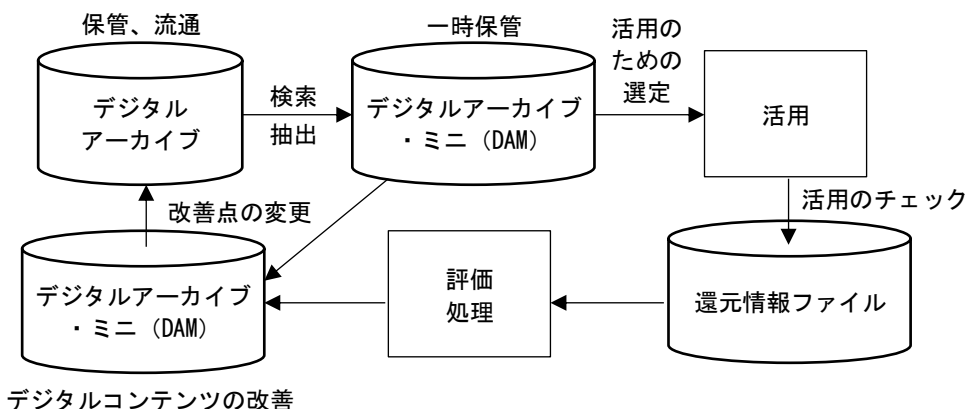


このとき、デジタルアーカイブ・ミニ (DAM) は、必要に応じてメタデータを付け保管する。また、保管した資料は書庫から関係図書を取り出し、本棚に領域別に並べると同様に、使いやすいように、領域別にファイルする。

(メタバース等で資料を調べる都度、デジタルアーカイブから検索、調べなくてよいように、利用目的に応じて整理する。)

2. 還元情報を用いたデジタルコンテンツの改善結果の一時保管 (DAM 利用)

メタバース等で今後、各種デジタルコンテンツを利用し、その問題点の改善が必要になってくる。このための還元情報ファイル、評価、改善、改善結果の再登録等をするデジタルアーカイブ・コーディネーターの作業を可能にする必要がある。そのために、これまでのデジタルアーカイブの活用計画、実施、評価、改善の PDCA サイクルが機能するシステムの構築が必要になる。



メタバース等でデジタルアーカイブを有効活用するためのデジタルアーカイブ・コーディネーターの仕事は、今後重要になってくる。

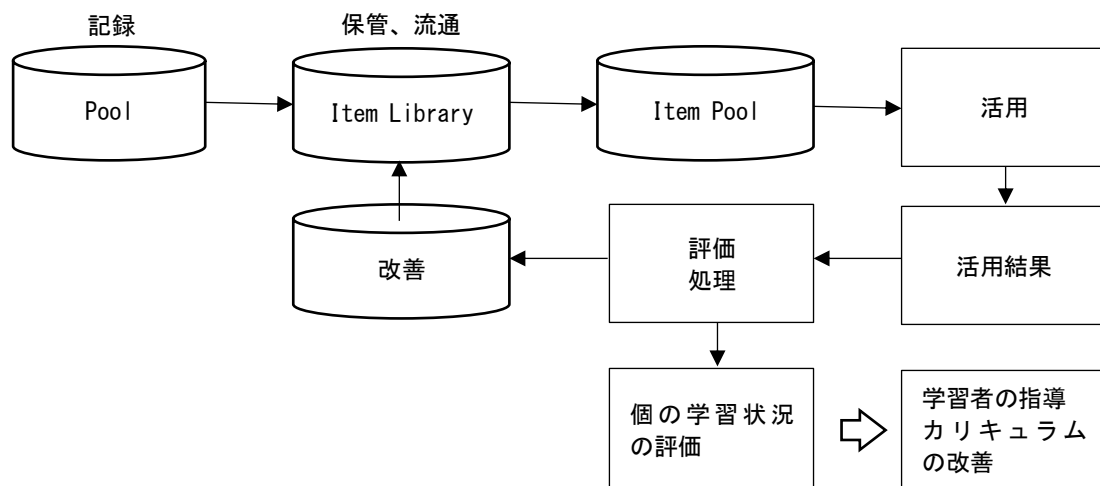
- ①利用目的に対応したデジタルコンテンツを検索、抽出し、利用者に使いやすく保管する能力
- ②利用目的に応じた資料の選定と活用のための処理支援
- ③活用した結果の評価能力（処理も含め）
- ④評価結果を参考にデジタルコンテンツ改善する能力

などが求められる。

3. 過去の記録、保管ファイル（一時保管 Pool）や Item Library（Item Bank）の再検討

～1950～1960年のブルーム等の研究や1967～1980年の岐阜での研究活動～

教育では Bloom 等により Item Pool、Item Library（Item Bank）として利用目標（教育目標分類体系：タキノミー）からそれに対応した Item の抽出、利用、さらに結果の評価、改善が求められてきた。



とくに Bloom は評価として、形成的評価、総括的評価、診断的評価等の研究を進め、単にコンテンツ評価ではなく、学習者の学びの状況、さらにカリキュラムの評価改善へ発展させている。

また、岐阜では、1967～1980年にこれらの処理システムを CMI として構築し、実践に適用してきた。当時はカナ文字、英数字しか入力できなかったが、現在は、文字、映像、音声、図版等が一つの機材に保管でき、デジタルアーカイブとしての新しい展開がされだした。しかし、基本的な処理については、Bloom から後の CMI 処理の再検討をする必要がある。

利活用の基礎になるのが利活用の目標である。とくに教育の場合は、教育目標への対応が求められる。

- ①教育目標と関連する資料の検索・抽出ができるようにする
- ②教育目標に対し、どのような整理、配列をするかが重要となる
- ③活用結果は、当然であるが活用目標に対応しての評価である

これらの検討は Bloom 等により 1950 年代から教育目標分類体系（タキノミー）として研究が進められ、また、それに対応したデータの抽出、Pool での保管などの処理研究がなされてきた。

（資料提供 後藤忠彦）